

---

# みゆ（にゃんこ）と子猫たち

シュリンケル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

みゆ（にゃんこ）と子猫たち

### 【Nコード】

N3391BA

### 【作者名】

シュリンケル

### 【あらすじ】

前作（「エッセイ わんこの視点」や「にゃんこの視点」など）からずいぶん時間が経ちました。

新たな家族を紹介するべくエッセイを追加します。

お暇つぶしにお読みくだされば幸いです！

## 1・みゆの青春。そして妊娠。

あら、みなさんお久しぶりだわね。

ずいぶん前になるかしら、あたいの毎日を紹介したわよね。  
あれからずいぶん色んな事があつたわ。

・・・あ、ちよつと待ってて

・・・ふう、イモリかと思つたらゴミだつたわ。（つい気がそれちやうのよ）

ちなみにあたいは一日5匹のイモリを捕獲した記録を持つてるのよ。  
彼らはあたいの手の中から決して逃げられはしないのよ。

さてと、いったいどこから話そうかしらねえ。

そうね、ちようど一年くらい前だつたかしら。

あたいはずいぶんとオスねこに追っかけられていたのよ。いわゆる  
”モテ期”ね。

通りの角をひとつ曲がるたびに、あたいの魅力に誘われてオスねこ  
がひよっこり出てくるのよ。

気に入ったオスの場合、あたいはぼてつと道に寝転んでおなかを見  
せながら毛づくろいをするの。

（彼らもまた、あたいの魅力から決して逃げられはしない）

うなーん、と彼らはあたいに求愛して見せるわ。

時には美味しい餌をくれる別宅を紹介してくれたり、時には彼らの  
テリトリーに連れ込まれて囲われそうになったり、色んな目にあう

のよね。（油断は禁物よ）

そんなオスねこの候補からあたいが身体を許したのは、一匹だけだった。

彼は白い身体に大きな瞳を持ち、とても育ちが良さそうだった。

雪の上を優雅に歩く彼を見て、あたいは一目で恋に落ちてしまったんだわ。

あたいは思わず雪の上で身体のを抜いたまま、ぼてつと横たわったの。

それを見た彼は優雅に近寄ってきてこう言ったの。

『お嬢さん、そんなところに寝転ぶと風邪をひきますよ』

そう言つて彼はあたいのほっぺをペロリとなめてくれたわ。（あたいの胸がきゅん、と鳴ったわ）

そんな事があつて、あたいたちは一夜を共にしたのよ。

（あたいはそうして命を宿したの、このおなかの中に）

- - -

あれから数ヶ月。

あたいは日増しに体重が増え、目に見えてまるまると太っていったの。

自宅のご主人様たちが不思議な顔をしてあたいの身体を眺めるようになったのはこの頃からね。

「お父ちゃん、みゆったらまるで妊娠しているみたいにお腹が大きいわ」

”おかあちゃん”があたいのお腹をさすりながら心配そうにそう言ったの。

「どれどれ」と”おとうちゃん”があたいのお腹をマッサージする。

あたいは彼らにお腹を優しくさすられながら、なんとか妊娠している事を訴えてみたの。

うなあーご。ああお。ごろごろ。

彼らはそんなあたいに柔らかい櫛をあてて何度もマッサージしてくれたの。

「きつとき、捨て猫だったから今だにたくさん食べちゃうんじゃないかな」

おとうちゃんがそう言つと、おかあちゃんも納得したみたいだった。

けれどもイヌの”ぴんちゃん”（あたいの恩人）はちゃあんと分かっていたのよね。

あたいの身体の変調を敏感に感じたぴんちゃんは、事あるごとにあたいの身体を丁寧に舐めて癒してくれたんだもの。

- - -

あたいのつわりは人間たちにはとても微妙な感じだったらしい。

夜中にあたいがげこげこと嘔吐していると、彼らは心配そうに身体をなでては労わってくれた。

「ねえ、これってつわりみたいじゃない？それとも変なものでも食べてきたかな？」

そんなふうにおかあちゃんがあたいの顔を覗き込む。

「うーん。正直、わからないねえ。おなかを触ってもうんちか赤

ちゃんかまったくわかんないよね」

ああ、おとうちゃんたら。うんこと一緒にしないでほしいんだわよ。そうしてあたいはいつもの寢床でのんびりと眠ったものよ。

（そこはりょうくん（おとうちゃんの息子）の勉強机に敷かれた柔らかい座布団の上だった）

お外では春を告げる巨大な風が吹きすさび、大きな月が辺りをきらきらと照らしていた。

- あたいは眠りながら感じていたわ、赤ちゃんたちの鼓動を。  
（ぴんちゃんの心配そうな視線と共に）

> i 1 3 7 6 5 — 1 7 6 8 <

1・みゆの青春。そして妊娠。（後書き）

次回は出産話につながります！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3391ba/>

---

みゆ（にゃんこ）と子猫たち

2012年1月8日20時47分発行